

地方公共団体名	鹿児島県和泊町
所属部局	企画課脱炭素推進室
地域の抱える環境・脱炭素に関する課題	沖永良部島は亜熱帯性気候であることに加え、近年の気候変動の影響もあり激しい降雨や台風が多いことから、赤土等流出による河川や海の汚染が生じ、以前から観光・農林水産業へ悪影響を与える懸念がある。※他の沖縄・奄美地方でも長年、同じ課題を抱えており、沖永良部島で得た知見を他地域の事業へ横展開することも可能と見料。
環境・脱炭素と同時解決したい地域課題	農地面では、グリーンベルトの設置や緑肥の導入、ワラ敷き等の土壌流出防止資材、沈砂池設置などの対策が行われてきたが、農家のコスト・労力が大きく、効果は限定的。また自然条件の面では、気候変動による更なる台風大型化・豪雨頻発化が進み、従来の設計規模を超える場合も想定され、既存技術での対応が困難となっている。
地域のありたい未来	地域資源を最大限活用しながら、基幹産業である農業を軸に人材・資金の地域内循環を生み出すことで、環境だけでなく社会・経済的にも「持続可能な農業の島」を実現。将来的には生物多様性保全との連携も視野に入れ、自然共生型かつウェルビーイングを実感できる暮らしの実現を目指す。
マッチングを望む分野	高 1 森林管理・活用・生物多様性 優 2 計画策定・改定 先 3 公共施設での太陽光発電 度 4 資源循環 ↓ 低 5 人材育成 その他 : 農業面の技術的課題への対応
マッチング企業と取り組みたい事業	植生被覆のための土壌粒子捕捉技術、透水性舗装により表面流出を低減する技術、沈砂池の堆積土壌掘削・搬出事業、バガス炭等有機資源の土壌還元技術による炭素貯留、AI・スマート農業の実装化（ドローン・自動走行農機活用による圃場管理、気象データを活用した遠隔自動灌水システム等）、それらハード・ソフト対策設備のエネルギー源としての再エネ活用（沈砂池の循環ポンプ・排水ゲートの自動遠隔監視・制御システム、水質管理施設等含む）、ブルーカーボンに資する磯焼け対策等を想定 ※所管課と調整中であり、あくまで一例